資料④２年

単元終了後に現れると想定する児童の姿　２年生

ア：言葉そのものへの興味・関心
　新しく出合った言葉や言葉の意味について、興味をもっている。

イ：自己内対話
　経験したことを想起し、自分の伝えたいことが明確になるように言葉を選んで書こうとしている。

ウ：他者とのコミュニケーション
　①相手に伝わるかを意識しながら、言葉や表現を選択して書いたり話したりしようとしている。
　②相手の思いや考えを受け止めたり推測したりしながら、好意的な関係を築こうとしている。

想定される本単元で獲得した言葉の力を活用しようとしている場面

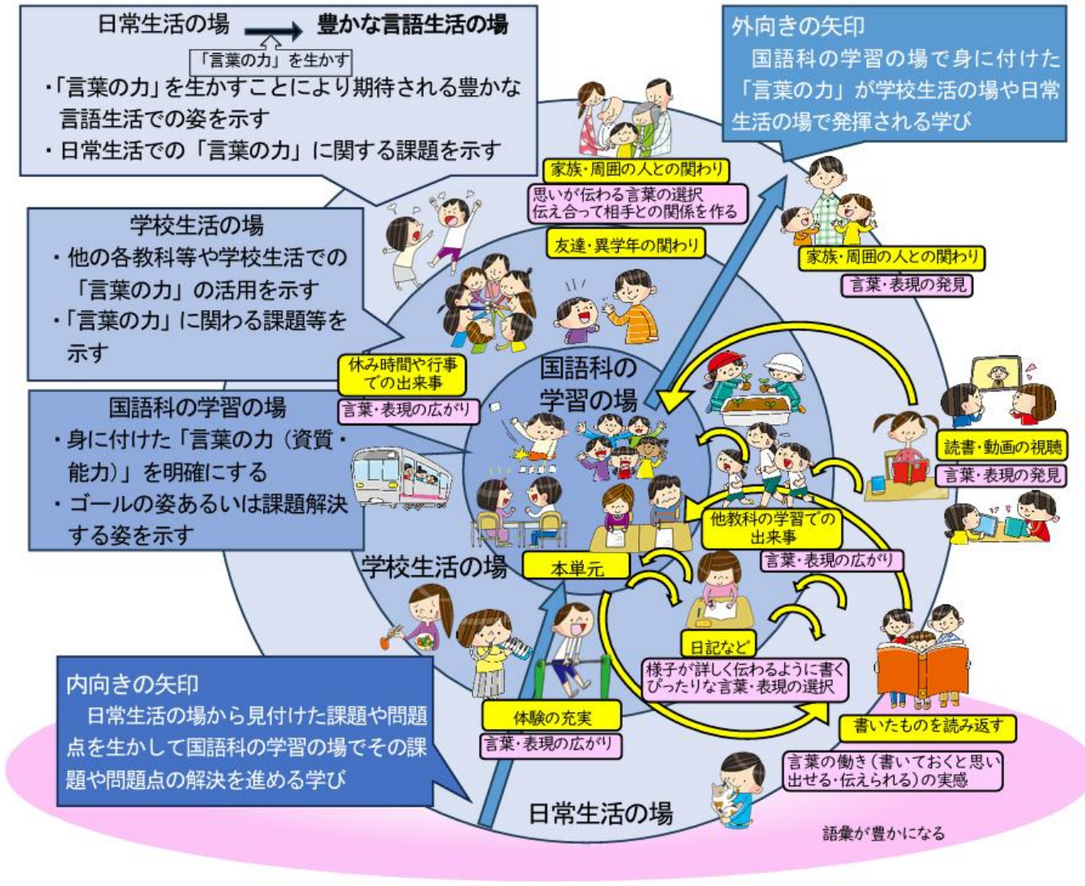
場面	具体的な姿
学習	ア：「書くこと」の「冬がいっぱい」の学習では、冬を感じる言葉や詩を見付け、自分の感想を添えた冬のカードを作り、友達と互いのカードを読み合っている。 ア：「読むこと」の「スーホの白い馬」では、学習材にある「はねおきる」という複合語に着目して意味を考え、二つの言葉が一つになって使われている言葉を集めて友達と紹介し合っている。 イ：「話すこと・聞くこと」の「楽しかったよ二年生」の学習では、題材を設定したり情報を収集したりする際に、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にして発表メモを書いている。 ウ①：「話すこと・聞くこと」の「楽しかったよ二年生」の学習では、相手に伝わるかを考えながら言葉や表現を選んで発表メモを書き、話している。 ウ②：「書くこと」の「すてきなところをつたえよう」の学習では、友達との関わりを振り返り、すてきだと感じたことを手紙で伝えることで、友達との関係を広げたり深めたりしている。
学校生活	ア：全校朝会の講話や縦割り班の異学年交流などで見聞きした言葉に関心をもち、意味を尋ねたり、推測したりしている。 イ：各教科の学習や、学習発表会などの行事の振り返りをするときに、経験したことを焦点化し、伝えたいことが明確になるように書いたり話したりしている。 ウ①：学校生活の中で、自分の思いや考えが、教師や友達に伝わるかを意識しながら書いたり話したりしている。 ウ②：各教科の学習や特別活動の話合いで、自分の思いや考えを伝え合いながら友達との関係を広げたり深めたりしている。
日常生活	ア：友達や家族が使っている言葉の意味を尋ねたり、言葉カードに気になる言葉や表現を書き留めたりしている。 イ：日記を書くときに、自分が経験したことを焦点化したり、家族や親戚、友達、近所の人や習い事の先生などに対して自分の伝えたいことを明確にしたりして書いている。 ウ①：自分の思いや考えが伝わるかを意識しながら、家族や親戚、友達、近所の人や習い事の先生などに言葉や表現を選んで書いたり話したりしている。 ウ②：日常会話の中で、自分の思いや考えを伝え合いながら周りの人との関係を広げたり深めたりしている。

言語部では、実生活の中に課題を見付けて単元化し、単元の学習を通して高まった言葉の力が実生活に還っていくような単元づくりを心掛けている。（右図、参照）

本帯単元では、学校生活の思い出をかるたの題材にし、継続した取組にすることで、「言葉には経験したことを伝える働きがある」という言葉の働きへの気付きや、「書きたいことを明確にし、ぴったりな言葉や表現を選んで書く」力を段階的に高めていく。「学級の楽しかったことを残したい」という思いからスタートし、１学期は「かるた作りを楽しむ」２学期は「伝わるように言葉や表現を見直す」３学期は「題材と言葉や表現を吟味する」をねらいとして進んでいる。年間を通した取組であるため、各小単元での学びを「日記や手紙を書いたり、他の人と話したりする」などの実生活（学校生活や日常生活の場）で生かすことができる。さらに、「実生活（学校生活や日常生活の場）での体験やそこで出合った言葉や表現」を次の小単元の学習に生かして「思い出かるた」を作成することもできる。

本帯単元は、学習、学校生活、日常生活の場を往還して進んでいく単元である。実生活と学習を往還しながら学ぶ経験を重ねていくことで、児童の語彙を豊かにしていくことができる。そのことが、児童の言語生活を豊かにしていくことにつながるのである。

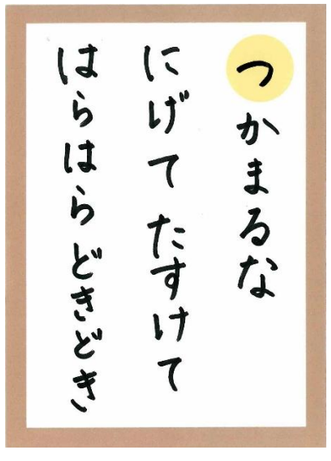
【図①「言葉の力」を生かすことで、豊かな言語生活を実現することについて】（都小国研：R7,6月）に追記



参考「豊かな言語生活者を育てる　ー国語の単元開発と実践ー」桑原隆　編著

かるた作品イメージ

①読み札



②絵札



③説明文（絵札裏）

